



「読書集会」を行いました

11月22日(金)、図書委員会の子どもたちの企画・運営による「読書集会」を行いました。この会では、日ごろから本の整理や図書室の整備をしてくださっている図書ボランティアの方々に感謝の気持ちを伝えることができました。また、学年毎に「しゃぼんだまの会」の方々に読み聞かせをしていただきました。学校では子どもたちがたくさん本の親しむことができるように、今後も読書活動を推進してまいります。

〈読書標語 各学年優秀賞〉

「本を見て かぞくのかいわ 広がるね」	1年	〇〇〇〇	さん
「本読んで 未来のぼくへ メッセージ」	2年	〇〇〇〇	さん
「読書の秋 テレビ見ないで 本を読む」	3年	〇〇〇〇	さん
「図書室の 本の世界は 無限大」	4年	〇〇〇〇	さん
「いつだって 本の中には 夢がある」	5年	〇〇〇〇	さん
「本読んで 咲かせてみよう 希望の芽」	6年	〇〇〇〇	さん



〈本をたくさん読んで賞〉(図書室貸し出し)

下学年の部

1位	1年1組	〇〇〇〇	さん (19冊)
2位	2年1組	〇〇〇〇	さん (11冊)
3位	3年2組	〇〇〇〇	さん (9冊)
4位	3年2組	〇〇〇〇	さん (8冊)
//	1年1組	〇〇〇〇	さん (8冊)
//	1年1組	〇〇〇〇	さん (8冊)

上学年の部

1位	4年1組	〇〇〇〇	さん (8冊)
2位	5年1組	〇〇〇〇	さん (7冊)
//	4年2組	〇〇〇〇	さん (7冊)
3位	5年2組	〇〇〇〇	さん (6冊)
//	4年2組	〇〇〇〇	さん (6冊)
//	4年2組	〇〇〇〇	さん (6冊)



新しい遊具 が設置されます

校庭の2箇所新しい「遊具」が設置されます。千屋地区大屋敷ご出身の〇〇〇〇様のご寄付によるものです。〇〇様は、本校の教育活動に役立てて欲しいと美郷町にご寄付され、それをもとに、遊具が設置されることになりました。今月からその工事が進められています。12月2日(月)に遊具のお披露目式を行う予定です。

県理科研究発表会

11月9日(土)、秋田大学を会場に県児童生徒理科研究発表会が行われました。本校からは、6年生の〇〇〇〇さんが郡の代表として出場しました。

〇〇〇〇さん 発表題「かつお節の不思議を探ろう！」

感想: 去年も参加したので、緊張せずに、しっかり発表できました。他校の人の発表も聞きました。電池でプラレールの電車がどこまで走れるかを実験した人もいて、その結果がかなりの距離だったのでおどろきました。

5・6年生 交流学習



6年生「国際教養大学で留学生と交流」

20日(水)、6年生が国際教養大学を訪問し、留学生と英語での交流を楽しみました。留学生から母国の文化や名所などについて紹介していただき、質問したり答えたりすることができました。



5年生「御田小5年生と交流」

19日(火)、千畑小・御田小の5年生がオンラインでの学習交流を行いました。今回は御田小の5年生が総合の学習として取り組んだ「白神山地の自然」などについて紹介してもらいました。

給食でも「新米」を味わっています

給食では、11月13日から新米が提供されています。実は私(〇〇)は、これまでの給食のご飯との違いに気づくことができませんでした。北給食センターの〇〇先生にうかがったところ、給食センターでは、3週間毎に精米し、いつも鮮度のよいご飯を食べてもらえるようにしているとのこと。なるほど、いつもおいしいご飯の陰には、こうした配慮があることを知り、有り難く思った次第です。

また、先週21日(木)には、秋田県米の新品種「サキホコレ」が給食に提供されました。これは、秋田米新品種ブランド化戦略本部より、有償提供していただいたものです。サキホコレは、「白さと艶が際立つ」、「粒感のあるふっくらとした食感」、「上品な香り、かむほどに広がる深い甘みがある」等の特徴があるそうです。でも、またもや私の感想は、「いつもの給食のご飯と同じようにおいしい」でした。サキホコレを食べた全校の子どもたちに聞いたところ、はっきりと違いを感じた子どもが約半数もいました。美食家の子どもたちです。

豆知識 いつまで「新米」と呼ぶの？

「新米」の表示は、収穫した年の12月31日までに精米し、容器に入れられるか、袋詰めされたものだけに付けられるそうです。 〇〇先生(北給食センター)提供の豆知識でした。

日本街路樹百景「松・杉並木」 新案内板



郵便局向かいの松並木の横に新しい案内板が設置されました。「松・杉並木」の観光案内板です。千畑小のシンボル「松並木」について、案内板には次のような説明書きがありました。

松・杉並木は、明治30年代に町の先覚者である坂本理一郎(東嶽)が、村(旧千屋村)の中心地に位置する一丈木周辺の原野を切り開き、村の公共施設をこの地に集中配置し、主要集落と連絡できるように当時としては広い幅員5~6mの直線道路を放射状に配する田園都市構想のもと、この道路両側に植樹されたものです。

町の木「赤松」として今も大切に保存しています。